

2020年度 ガイドライン評価改善シート

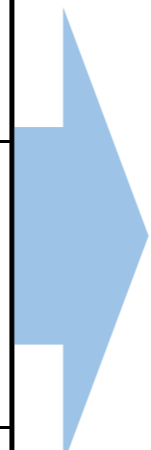
施設名 ( I P P O うめな園 )

作成日時 ( 年 月 日 )

代表	施設長	本部
印		

R1年度 改善への取り組み	スタッフの支援向上のための、研修時間の確保（支援の統一化をはかる・個々の出来る芽生えに対しての療育・障害特性の理解・個人での研修参加）/地域社会との交流/保護者会の開催/防災・感染症部会の活動を保護者の皆様にわかりやすく伝達
今年度の施設目標	・防災訓練、感染症予防についての取り組みを広く周知していく ・ペアレントトレーニングを学び相談会等を通して保護者が育児を楽しみ自信を積み重ねていけるようにする ・地域社会との交流をはかる

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・職員の配置数、専門性は適切である。 ・外階段等に手すり、スロープ等の設置がされていない。	・事業者側では、部屋の構造化や個別の生活シナリオにより、適切な人数での活動スペースを十分に確保している。
業務改善	・業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に引き続き職員が参画しているか。	・子どもの障害によって、1階、2階と分かれていて支援者が固定化されていたが、支援者全員が日々学び向上するため、1階、2階の子どもの成長を正確に把握し支援を行うべく固定化をなくした。
適切な支援の提供	・家族支援・地域支援の具体的な支援がなされていない。 ・外部機関との交流の足りなさ。	・10月に就学前の子を中心に、三島市立 坂幼稚園との交流会を開催。 ・防災意識を高めるため、三島消防署の訪問。 ・三島警察署 交通指導課による交通教室で、交通ルール、マナーを学ぶ機会を設けた。
関係機関や保護者との連携	・各関係機関や保護者との連携は取れている。 ・家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）が行われていない。	・ペアレントトレーニングの講習会の申し込みをしていたが、コロナの為、中止になり参加できていない。
保護者への説明責任等	・保護者同士の連携が支援されていない。	・保護者会、懇親会はコロナの為、中止、延期をしている。（今期は1回のみ開催） ・コロナの状況を見て、開催の予定。
非常時等の対応	・個人情報意識していたが、十分配慮できていなかったこともあった。 ・緊急時マニュアル等の冊子を配布しているが、口頭での説明はなく完全に周知できていない。	・個人情報について、改めて保護者には再確認をし、スタッフ全員意識付け出来るようにした。 ・マニュアル化したもの今後は個人面談や利用開始の時に説明していく。 ・発生を想定した訓練は、引き渡し訓練/火災/地震/水害とこれまでに、昨年度は年6回、今年度は4回開催している。



分析検討してみたの事業所の強み	分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の構造化、個別の生活シナリオにより、各エリアでは適切な人数の子ども、支援者で療育活動が行われている。</li> <li>・障害の特性に合わせて支援者の人数を決め、個々に合わせた丁寧な支援をしている。</li> <li>・机上での活動ばかりではなく、体幹を鍛えるために同社他施設を利用し週3回、身体の発達を意識した活動の時間を設けている。</li> <li>・子ども達の多様な行動の理由を、感覚統合のトラブルという視点から、個々の特性に合わせて理解、具体的な支援を行っている。</li> <li>・集団活動につなげられる個別活動の取り組み。（ルールのある活動・ごっこ遊び・言葉のやりとり等を個別活動に取り入れていく）</li> <li>・職員のスキルアップを図るため専門家におけるコンサルテーション、勉強会への参加。</li> <li>・子どもだけでなく、保護者の気持ちに寄り添うことで信頼感を高めスタッフ間で情報共有をすることで支援の統一化をはかっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフミーティングの機会を作っていたが、定期的に開催し新しく障害の特性の理解を身につけるまでには至らなかった。</li> <li>・新人スタッフは現場に入る前に、障害の特性を学ぶ研修を実施する。（リタリコでの研修・職場内でのスタッフの動画を見ての勉強会をしていく）</li> <li>・就学前の子を中心に、幼/保との交流を子ども達の発達状況に合わせてグループ分けをして積極的に設けていく。</li> <li>・地域社会に対して開かれた施設を目指す。（幼/保との連携 外部からの芋ほり参加 警察署の交通教室 消防署見学）</li> </ul>

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、支援にあたっての資質向上のために研修時間を計画的に確保していく。（アセスメントからの自立課題の設定をし、個々の出来る芽生えに対しての見直し・困難な場面でも統一した支援の取り組み・障害特性の理解・個人での研修参加への取り組み）</li> <li>・地域社会との交流の機会を職員自ら積極的に設けていく。</li> <li>・コロナの状況を見ながら、保護者会を開催回数を増やし保護者の連携をサポートしたい。</li> <li>・就学前の保護者に対して、就学先のイメージが付きやすくなる情報提供の場を設ける。</li> <li>・日々の療育活動をより具体的に伝えるために映像（タブレット）を利用し、お子様の成長を実感できるようにする。</li> <li>・地域との交流や、施設外での活動経験を通し、子ども達の成長を実感する事で支援者自身がやりがいを感じる機会を設けていく。</li> </ul>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況を見ながら、ペアレントトレーニングを学び、相談会等を通して保護者が育児を楽しみ自信を積み重ねていけるようにする。</li> <li>・日々の感覚遊び（感覚統合）と合わせて、週3回は同社他施設（はったばた園）での、運動遊びを通し体幹を鍛えていく。</li> <li>・お便りなどの文面だけでなく、日々のお子様の表れを映像（タブレット）を使用しより具体的に伝え、保護者と成長の喜びを共感できる機会を作ると共に、施設の狭さを系統的に（構造化、生活シナリオ、施設外での活動）解消し、子ども達が活動するには十分な療育の場所があることを伝えていく。</li> </ul>

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニングを学び、相談会等を通して保護者が育児を楽しみ自信を積み重ねていけるようにする。</li> <li>・日々の感覚遊び（感覚統合）と合わせて、週3回は同社他施設（はったばた園）での、運動遊びを通し体幹を鍛えていく。</li> <li>・お便りなどの文面だけでなく、日々のお子様の表れを映像（タブレット）を使用しより具体的に伝え、保護者と成長の喜びを共感できる機会を増やし喜びを積み重ねていく。</li> </ul>
----------	--